

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

（令和7年9月10日 午前9時45分）

●議長（酒井 聰） おはようございます。お疲れ様です。

ただいまの出席議員は12名全員であります。定足数に達しておりますので本日の会議を開きます。なお、荒井代表監査委員、小林農業委員会長から欠席届が提出されております。本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第1、通告による一般質問を行います。質問時間は最大1時間をめどに、質問者、答弁者は進行にご協力をお願いします。なお、答弁者及び質問者の都合により、質問の順序を変更することもありますので、あらかじめご承知願います。また、質問者と質問者との間に10分程度の休憩をとることといたします。

通告の1番、橋崎一雄議員。

1、上下水道事業の運営について

議席番号9番、橋崎一雄議員。

◆9番（橋崎一雄） おはようございます。議席番号9番、橋崎一雄でございます。朝一ということで頭がぼやっとして、口もよく回らないような感じですが、よろしくお願ひします。本日通告しましたとおり、上下水道事業の運営について一本でございますが、よろしくお願ひしたいと思います。まず、今後の上下水道事業の運営ビジョン、運営方針を町長からお聞きしたいと思いますが、よろしくお願ひします。

●議長（酒井 聰） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） おはようございます。それではただいま頂きました、橋崎議員からのご質問にお答えいたします。町は令和7年3月に第6次長期振興計画の後期計画を策定いたしましたけれども、上水道及び下水道に関しましては、基本目標の4番、安全に確かな暮らしができる町という項目の中で、上下水道の将来にわたる施策の方向性を示したところでございます。はじめに水道事業につきましては、持続可能な水道事業運営、安全な水の供給、そして災害に強い強靭な水道ということを基本に掲げまして、安全でおいしい水を安定的に供給するための基盤を整えていくことを目指すこととしております。水道は町民生活に欠かすことのできない基本的なインフラでございまして、町民に対して安全かつ安定的に供給することを念頭に、効率的な経営への転換や管路の耐震化を進めるとともに、老朽化した設備の更新を計画的に進めていく必要があると認識しております。今後は、人口減少が続くものと想定される中で、持続可能な水道事業の運営を実現するため、配水系統の統合や適正な料金収入の確保など様々な課題を着実に解決してまいりたいと考えております。続きまして下水道事業につきましては、今後の推計人口に見合った汚水処理方式の検討と経費回収率の改善を図りながら、財政負担を軽減

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

しつつ、持続可能な下水道サービスの運営を目指すこととしております。また、サービスを将来にわたって安定的に供給、提供するためには、地方公営企業の原則であります汚水処理費を使用料で賄うことを実現しなければならないと認識しております。人口減少や集落特性を考慮した上で、既存施設の更新だけでなく、汚水処理方式の見直し、これの中には集合処理から合併浄化槽等への個別処理への転換も含めて検討しておりますけれども、これらについて総合的に評価、検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。以上です。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） ありがとうございました。それでは個別に少しずつ質問させていただきたいと思いますが、下水道事業なのですけれども、供用開始から相当たつわけでございますが、当初の計画から下水道事業、ちょっと外されて整備されていない地区があるわけでございます。町の方針もあるかと思いますが、いまだに下水道整備を進めていただきたいというような住民の声もあるわけでございます。そんな住民の皆さんに、今後どのような対応をしていくのか、またその地区にどのような対応をしていくのかお聞かせいただきたいと思います。

●議長（酒井 聰） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） それでは答弁に先立ちまして、汚水の処理方式について若干説明をさせていただきたいと思います。汚水処理の方式と言いますか、方法には大きく2つの方法がございまして、1つは、特定の受益地域内にある家庭から排出される下水を、管路によって処理施設に集めて処理いたします集合処理と呼んでおります。これとは別に、ご家庭ごとに浄化槽を設置する個別処理というふうに今呼んでおりますが、この2つに大別されるかと思います。それぞれ長所短所がございますけれども、どちらの方式も処理能力には大きな差がないというふうに認識しております。また、集合処理の特徴といたしましては、設備投資に多額の費用を必要とするため、一定区域内の人口や人口密度が少ないケースでは受益者や自治体が負担する費用が割高になるというふうにされております。またその一方で、個別処理に関しましては、設備投資は安価にできるわけでございますし、また、設置に要する時間も短いというメリットがございますけれども、その一方で、処理水の水質を適切な水準に維持するための管理や検査は使用者に行っていただくというような面がございます。今後は、このような前提条件の下で町全体の汚水処理方式の在り方を見直してまいりますけれども、現時点において集合処理として整備が行われていない地区にありますことは、個別処理として整備する方向で調整してまいりたいと考えているところでございます。なお、詳細につきましては、担当の建設水道課長から答弁させていただきます。

●議長（酒井 聰） 黒田建設水道課長。

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

■建設水道課長（黒田英志） それでは詳細について説明させていただきます。集合処理、つまり下水道の整備されていない地区におきましては、整備内容なのですが、下水道エリア外及び下水道エリアであって下水道整備が見込まれない地区におきましては、町内に住所を有する方に対しまして、小型合併浄化槽設置整備補助金というのを現在出しております。内容につきましては5人槽で1基あたり42万円、7人槽で50万4000円、10人槽で69万円を交付しております。令和6年度の実績としましては、5人槽7基、7人槽2基、10人槽1基、補助金総額で463万8000円となっております。また、浄化槽の維持管理につきましても下水道エリア外、下水道整備が見込まれない地区におきまして、町内に住所を有する方に対しまして年間1万円の維持管理の補助を行っています。令和6年度の実績は294万円となっております。以上であります。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） ご説明いただきましたが、大きく下水道整備事業の方向性が、大きく変わったのだというようなことをきめ細かに、また住民にもお知らせしたり地区にもお知らせして、そういうところをはっきり説明することが、本当に住民の皆さん理解も得られるのではないかと、そんなふうに思いますので、そんな対応を是非お願ひしたいと思います。それでは次の質問に入りますが、水道管布設替えの進捗状況をお聞きしたいと思いますが、平成26年度でしたか、水道料金改正がありまして、そのときに大変議会内でも混乱して特別委員会を作ったりして、水道料金の値上げ反対というような署名活動も行われたりしたわけでございますけれども、何とか議会の中でも理解を頂く中で了解した経過がございます。そんな経過の中でございますけれども、この料金値上げに従って布設替えがぐんと進むのではないかと、そんなふうに私ちょっとと思ったところでございますけれども、昨日の監査委員さんからの報告書にもありましたけれども、あまり進んでいない状況が見えたところでございますが、布設替えの状況をお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

●議長（酒井 聰） 黒田建設水道課長。

■建設水道課長（黒田英志） それではお答えさせていただきます。平成26年度に信濃町水道事業ビジョンを策定し、老朽化の効率的な更新を行うとして、重要度が高い管路、主要公共施設や災害時の避難場所につながる管路等を選定・抽出し、重要管路と定め更新することといたしました。その後、平成28年度に古海、菅川簡易水道、高沢飲料水供給施設を上水道事業に統合し、平成29年度には先ほど議員からもありましたが、水道料金平均14パーセントの料金改定をさせていただきました。その中で、耐震性が低い石綿セメント管を優先的に更新するとしておりまして、今現在の状況なのですが、平成26年度末にあった石綿セメント管の延長は7404メートルでありましたが、ビジョン策定後、石綿管の更新を優先的に進めまして、令和6年度末には約半分の3749メートルぐらいまで減少しております。また浄水道統合後の耐震化率は平成29年で17.9パーセントであ

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

りましたが、令和6年度末での耐震化率は20.5パーセントでした。こちらも全体的には低い数字となっているのですが石綿セメント管の布設替工事につきましては、コストと非常に手間が他の管種と比較しますと多くかかるようになってしまいます。そういうことがネックとなっておりまして進まない状況ではあると感じております。以上であります。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） どの町村もそうだと思いますけれども、大変布設替えが進んでいない状況、信濃町もそのとおりになっているのかなと思いますけれども、本当に進んでいないなと感じるところでございます。それを踏まえてですね、今後の水道管の布設替え計画、これをちょっとお聞きしたいと思いますが、お願ひします。

●議長（酒井 聰） 黒田建設水道課長。

■建設水道課長（黒田英志） それでは先ほどの町長からの答弁もありましたが、ちょっと重複してしまいますが、水道事業は持続可能な水道事業運営、安全な水の供給、災害に強い強靭な水道を基本理念にやっております。また令和6年度に、当初の基本理念を継承しつつ、今後の人口減少や施設更新等についての見直しを行いました。管路は水道事業の総資産に占める割合が非常に大きい施設であります。先ほどもありましたが、平成29年に料金改定をし、その純利益を財源に断水リスクを考慮した配水管の布設替えを行ってまいりました。この布設替えは先ほどもありましたが、石綿セメント管を優先し、塩化ビニール管などは水道事故を考慮して、水道用のポリエチレン管に随時布設替えを行っております。今後は重要施設など重要度が高い管路の設定及び石綿セメント管、塩化ビニール管の布設替えを順次行う計画であります。以上です。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） 水道管の布設替え、遅れている中で昨日も説明ありましたけれども、大小問わず漏水の事案も本当に多く起きており、そういう状況でございます。予算の関係も大きく影響している状況で、布設替えが進まないのかなと感じているわけでございますが、石綿セメント管、これも中心に先行して布設替えをされているということでございますが、石綿セメント管、石綿ですからアスベストですね。これも大変、住民の皆さん心配される方もいるかと思いますが、飲むぶんに、飲料水としては全然問題ないと、そういうような話も聞いておりますが、石綿セメント管を工事する、その工事に伴ってアスベストが飛散して健康被害が出るような話も聞いております。ここら辺の工事につきましては業者に委託するのかと思いますけれども、そういうた指導を特にしておられるのか、ここら辺をお聞きします。

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

●議長（酒井 聰） 黒田建設水道課長。

■建設水道課長（黒田英志） 石綿セメント管につきましては、本年度、仁之倉地区の仁之倉中央線というところで、500メートルほどの石綿セメント管からポリエチレン管への布設替えを行っております。業者の方も石綿につきましては、重々承知の上で、十分湿らせた上で飛散しないような保護をしながらやっている状況であります。以上です。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） 本当に、アスベストは非常に危険な物質だと聞いておりますので、そのへんの安全性も特に注意をしながらお願いしていただきたいと、そんなふうに思います。また、下水道整備に合わせて当初の話もあったが、水道管の布設替えも計画にあったと聞いておられるのですが、下水道計画は先ほどもありますけれども、見直されて下水道が通らない、併せて水道管の布設替えもされない、そういうような地区もあるわけですが、そのへんの考えをひとつよろしくお願いしたいと思います。

●議長（酒井 聰） 黒田建設水道課長。

■建設水道課長（黒田英志） 下水道管布設当時は一緒に下水道管と上水道管を布設替えしてきた経緯がありますが、行わぬ地区につきましては、例にたとえますと、ちょうどその頃、塩ビ管というところの割合が非常に多いかと思っております。塩ビ管につきましても年数がたってきますと、縦割れというか、割れちゃうような状況が起こっています、起こっているのはわかっているのですが、なかなか財源が追いつかないという面もありまして、状況を見ながら随時更新をしていく予定であります。以上です。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） 下水道の整備も行われない、また水道管の布設替えも行われないということで、そういう地区においてはですね、大分不満もたまつてくるわけでございますけれども、また一つそういうところも頭に入れていただきながらですね、布設替えを進めていただければと思います。続いてですね。配水池の状況、配水池の整備等の考え方をお聞きします。よろしくお願いします。

●議長（酒井 聰） 黒田建設水道課長。

■建設水道課長（黒田英志） それでは配水池なのですが、信濃町は12の配水系統に分かれております。増設した配水池を含めると全部で24箇所が町内にはあります、そのうち3施設が耐用年数を経過しております。耐用年数は60年となっておりますが、地震や風水害に対する被災を軽減し、災害時においても水道の供給ができるように水道施設の

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

耐震化を進めることは非常に大事なことと考えております。今後の配水池整備は、改定した水道事業ビジョンから柏原配水池、土橋配水池、野尻第1配水池、野尻第2配水池、黒姫第1配水池の施設の更新をしており、統廃合の検討では長水配水池、富士里配水池、荒瀬原配水池が統合できないかというふうで現在検討しております。また、鉄、マンガンを多く含んでいる富が原配水池におきましても、早期の段階で除去装置の整備を進める計画でいるところであります。以上です。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） 老朽化対策というような形の中で、計画を進め始めているという状況かと思います。老朽化対応だけでなく、よりきれいな水、おいしい水、こういったものを全町民が公平に享受できる、そんな体制を是非作っていただきたいと、そんなふうに思います。今ちょっとお話をありましたけれども、配水池によって成分が若干違うわけですね。そんなところで、やっぱりおいしい水、きれいな水、こういったところを飲みたいという住民の心情はあるわけでございますが、そういったところも是非加味していただいて、配水池の整備等の計画は逐次進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。いろいろ質問しましたけれども、昨日の監査委員さんの意見にもありますけれども、各地で大規模な災害が多発している状況に鑑み、安定した水道水の供給のために水道施設の耐震化、老朽施設の効果的・効率的な更新が望まれるとしているわけでございます。予算の関係、収入の関係、水道料金の関係もございます。このところを踏まえて、最後に水道料金、下水道使用料の考え方を、町長にお聞きしたいと思いますがよろしくお願いします。

●議長（酒井 聰） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 水道料金、下水道使用料についての考え方ということでございます。上水道事業につきましては、地方公営企業法を適用した公営企業ということで運営させていただいているので、基本的な原則といたしましては、使用料金をもって事業を運営することとされております。従いまして、決算の状況あるいは将来の財源見込みなどを総合的に勘案いたしまして、収支のバランスが確保できないと判断される場合にあっては、料金改定を行う必要があると認識しております。なお、下水道料金につきましては、経費の回収率、昨日も監査委員さんの方から報告がありましたとおり、使用料に対して経費が追いついていないというような状況がございますので、料金改定の必要性あるいは見直しの水準などを現在試算しているところでございます。令和5年度の実績においては、収支のバランスがマイナス15パーセントという状態になっておりますので、これを解消するための使用料金の改定について下水道事業運営審議会においてご審議いただいているところでございます。なお、審議会に先立ちまして、国における下水道事業に関する検討状況あるいは先進地の事例を研究するため総務省が所管いたします、経営財務マネジメント評価事業のアドバイザーにも、ここ2年ほどご助言を頂いておりま

令和7年第424回信濃町議会定例会9月会議 会議録（3日目）

して、下水道事業を取り巻く全国的な動向や将来的な見通しなどを踏まえて、町民の皆さんに納得いただけるような道筋を見いだしていきたいと考えているところであります。以上です。

●議長（酒井 聰） 橋崎議員。

◆9番（橋崎一雄） 以上、質問を終わらせていただきますが、お願いしたと言いますか、指摘した部分もありますので、是非そういった部分をまた更に検討いただいて、布設替えが進んだり、配水池整備が進むようにお願いして質問を終わります。

●議長（酒井 聰） 以上で、橋崎一雄議員の一般質問を終わります。この際10時25分まで休憩といたします。

（終了 午前10時13分）